

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		社会教育指導員配置事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
				434	担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	高齢者学級数	学級	23 19	12 12	12 14	14 14	14 14
(個別目標)		2	多様な志を育むまち			主な費目	報酬、報償費、旅費					イ	高齢者学級参加者数	人	700 459	700 408	700 277	700 277	700 277
(施策)		2	社会教育の充実	対象	社会教育指導員					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)		3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア	高齢者学級参加延人数	人	4,000 2,213	4,000 2,286	4,000 1,881	4,000 2,286	4,000 1,881	4,000 2,286	4,000 1,881
(施策)		5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	R8 年度～ R8 年度（ 1 年間）					イ									
(1)総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	社会教育主事を補佐し、社会教育の特定分野についての直接指導、学習相談又は社会教育関係団体の育成等を行うものであり、社会教育の推進・充実、市民の学習活動の推進が図られる。						
		財源内訳	その他特定財源	千円															
		財源内訳	一般財源	千円	6,743	6,965	7,863	7,863											
		事業費計 (A)	千円	6,743	6,965	7,863	7,863	0	0										
		所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025												
		人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	0	0										
(A) + (B)				千円	6,883	7,105	8,003	8,003	0	0									
(2)事業概要																			
事業目的	社会教育主事を補佐し、社会教育の特定分野についての直接指導、学習相談又は社会教育関係団体の育成・指導等を行う。										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	高齢者学級や家庭教育学級等の募集・企画・運営について、研修内容を工夫しながら、参加者の増加を図っている。 また、3人の社会教育指導員の配置に伴う経費や講師謝金に係る経費であり、削減は難しい。						
事業内容	・高齢者学級や家庭教育学級等の募集・企画・運営 ・学習相談又は社会教育関係団体の育成・指導 等																		
開始経緯	生涯学習の指導、相談対応等のため配置しており、社会教育指導員の指導助言により、高齢者学級の開催や社会教育関係団体の育成により、市民の学習活動の推進が図られる。										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	高齢者学級については、高齢化・過疎化等により参加者が減少傾向にあるが、研修内容の充実や事業周知により新たな形式での学級も開設に向けて取り組んでいる。 今後についても、引き続き研修内容の工夫しながら、参加者確保を図る必要がある。						
実施状況	3人の社会教育指導員を配置し、高齢者学級や家庭教育学級等の企画・運営等公民館主事と連携し社会教育の推進を行っている。																		
成果	3人の社会教育指導員を配置し、高齢者学級や家庭教育学級等の企画・運営、社会教育団体の育成・指導を公民館主事等と連携しながら実施し、社会教育の推進・充実が図られた。										改革改善案	拡充 ○ 現状維持 改善 ○ 効率化 廃止終了							
課題	高齢化・過疎化等により参加者が減少傾向にあることや地域により運営体系に違いがあることから、今後、研修内容の充実や事業周知により参加者確保と提供するサービスの統一を図る必要がある。																		

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		家庭教育学級開設事業			事業番号	担当課	生涯学習課			(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度						
					1055	担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	開設学級数	学級	39	39	39	39	39	39			
(個別目標)			2	多様な志を育むまち				主な費目	報償費、委託料							33	33	35						
(施策)			2	社会教育の充実			対象		家庭教育学級					イ	家庭教育学級生	人	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300		
(基本目標)		3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる			事業期間		R8	年度～				ア				家庭教育学級参加率	%	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(施策)		5	こころざしアップ教育推進プロジェクト				R8	年度（1年間）				イ												
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価					所管課による評価				
年間トータルコスト	事業費内訳	財源	国県支出金	千円									有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	保護者や地域から子育てに関する意見・要望等が多く寄せられており、また、近年、情報モラル教育等、様々な課題も生じていることから、身近な保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校に家庭教育学級を開設し、全ての教育の原点である家庭教育の充実を図る必要がある。									
			その他特定財源	千円																				
			一般財源	千円	1,120	1,240	1,240	1,696																
	人件費コスト		事業費計（A）	千円	1,120	1,240	1,240	1,696	0	0														
			所要人員（年間）	人	0.025	0.025	0.025	0.025																
			人件費概算（B）	千円	140	140	140	140	0	0														
		（A）＋（B）	千円	1,260	1,380	1,380	1,836	0	0															
(2)事業概要															効率性評価					保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校と連携しながら、内容の充実を図る必要がある。 また、経費については講師謝金や消耗品等の経費に充てられており、削減は難しい。				
事業目的	家庭教育は全ての教育の原点であり、親と子が日常的な生活を送る中で、基本的な生活習慣や善悪の判断等を身に付け、思いやりの心や感動する心などをもつ、心豊かな子どもの育成を目指して保護者が共に学習する。																							
事業内容	・事業説明 ・年間学習計画書受理・審査 ・委託契約締結、委託料支払 ・実績報告書受理・審査																							
必要性	家庭教育は社会教育の原点であり、基本的な倫理観や社会的なマナーなどを育成するうえで重要な役割を果たすものであるため。																							
実施状況	家庭教育学級を保育所（認定こども園を含む）、幼稚園、小学校、中学校の35学級を開設。それぞれの学級が、様々な工夫をしながら事業を実施しており、平均9回程度の活動となっている。学習内容は人権教育、心肺蘇生・AED講習、子育て学習、食育などの各種学習会、ニュースポーツ体験、レクリエーション活動や携帯スマートフォン等の情報モラル教育など多彩なプログラムが実施されている。													達成度評価		・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		家庭が全ての教育の原点であるという認識と関心をもってもらうため、全ての市内保育所（認定子ども園を含む）での開設を目標に、福祉課と連携しながら、開設を推進していく。						
成果	各学級では、家庭教育の充実を図るための様々な事業が実施され、人権教育、食育や情報モラル教育など課題解決の学習活動のへ指導助言を行ったほか、「志アップ 子育て手帳」の活用により、学級生の資質向上が図られた。													改革改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	家庭が全ての教育の原点であるという認識と関心をもってもらうため、市内16保育所（認定子ども園を含む）での開設を目標に、福祉課と連携しながら、引き続き家庭教育の推進を行っていく。																							

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		公民館管理運営事業		事業番号	担当課		生涯学習課			(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度							
				438	担当G		社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)						
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	条例公民館数	箇所	9 9	9 9	9 9	9 9	9 9					
(個別目標)			2	多様な志を育むまち		主な費目	報酬、旅費、需用費、委託料					イ												
(施策)			2	社会教育の充実		対象	条例公民館					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる		事業期間	R8	年度～				ア	施設利用者延人数	人	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000				
(施策)			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト			R8	年度（ 1 年間）				イ	生涯学習講座参加人数	人	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000				
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価					所管課による評価				
年間 トータル コスト	事業費 内訳	財源	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	条例公民館は、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場として活用されており、引き続き利用者が利用しやすい施設の維持管理に努める必要がある。									
		財源	その他特定財源	千円																				
		財源	一般財源	千円	21,074	30,000	21,074	15,079	18,000	18,000														
		事業費計	(A)	千円	21,074	30,000	21,074	15,079	18,000	18,000														
		所要人員	(年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200														
人件費	人件費概算	(B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120															
		(A) + (B)	千円	22,194	31,120	22,194	16,199	19,120	19,120															
(2)事業概要																								
事業目的	市内9条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民のが利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進を図る。																							
事業内容	・利用調整や施設の維持管理 ・生涯学習講座等の企画・運営 ・施設修繕、保守点検業務 等																							
開始経緯	社会教育法第21条第1項に基づき社会教育推進の中心施設として整備されており、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。																							
実施状況	市内9条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民のが利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進が図られた。																							
成果	条例公民館については、市民が利用しやすい施設として、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。様々な活動に加え、高齢者学級や生涯学習講座も開設し、社会教育の推進が図られた。																							
課題	施設や空調機等の設備の老朽化が進んでいることから、公共施設管理計画に基づいた施設や設備の整備・更新などを年次的に進める必要がある。																							
														改革改善案										
														拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了					
														利用者のニーズに合わせた利便性向上に係る取組を検討しながら、施設の適正な維持管理に努める。										

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		農村研修センター管理事業			事業番号	担当課	生涯学習課			(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度								
					830	担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標)	(目標)	(目標)								
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	農村研修センター数	箇所	4 4	4 4	4 4	4 4	4 4	4 4					
(個別目標)			2	多様な志を育むまち				主な費目	委託料、役務費																	
(施策)			2	社会教育の充実			対象		農村研修センター					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標)	(目標)	(目標)				
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる				事業期間	R7 R7	年度～ 年度（1年間）					ア	施設利用者延人数	人	7,000 6,795	7,000 6,344	7,000 6,342	7,000	7,000	7,000			
(施策)			1	快適な生活支援プロジェクト																						
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価									
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	これまで地域の中心となる施設として活用されている が、利用者の利便性の向上や役割分担の明確化等の課題が 生じていたことから、地域の校区公民館長から、指定管理 者制度について意見を伺っており、地域の活力を積極的に 活用することが適当と考えられることから、変更すること となった。											
		財源内訳	その他特定財源	千円																						
	財源内訳	一般財源	千円	2,803	2,803	2,544	2,317	2,500	2,500																	
	事業費計	(A)	千円	2,803	2,803	2,544	2,317	2,500	2,500																	
	所要人員（年間）	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050																		
	人件費概算	(B)	千円	280	280	280	280	280	280																	
	(A)＋(B)	千円	3,083	3,083	2,824	2,597	2,780	2,780																		
(2)事業概要																										
事業目的	研修、集会等を通じて農村地域住民の社会的連帯感を高め、魅力ある生活環境の形成及び地域づくりに寄与するため設置している。															効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	指定管理者制度への変更により、利便性の向上や役割の明確化、また、簡易な修繕であれば管理者でできるようになることから、地域活力の積極的な活用が図れる。 なお、指定管理料については、施設の維持管理に係る経費であり削減は難しい。								
事業内容	・指定管理に係る基本協定、年度協定締結 ・利用状況報告 ・協定を超える施設修繕 等																									
開始経緯	・田之浦ふるさと交流館－平成17年 ・森山地区生活改善研修センター－昭和50年 ・潤ヶ野地区営農研修センター－昭和53年 ・八野地区農業構造改善センター－平成3年 ・内之倉農村広場－平成元年 に整備され、令和3年度より運営形態をこれまでの直営方式から指定管理者制度に変更する。															達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	これまでも地域の中心となる施設として活用されている が、運営形態を指定管理者制度へ変更することにより、利便性の向上や役割の明確化、また、簡易な修繕であれば管理者側で可能であるため迅速な対応が可能となる。								
実施状況	これまで校区公民館活動の話し合い活動等の施設として使用されるとともに、災害時の避難所等に指定されている施設もあり、地域の中心となる施設として活用されている。																									
成果	これまで地域の中心となる施設として活用されているが、今回の指定管理者制度への変更により、利用者の利便性の向上や役割分担の明確化、これまで以上に施設の有効活用が図られる。															改革改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	施設や空調機等の設備の老朽化が進んでいることから、公共施設管理計画に基づいた施設や設備の整備・更新などを年次的に進める必要がある。																									

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		青少年研修支援事業		事業番号	担当課	生涯学習課						(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
				1060	担当G	社会教育グループ						活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
						会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	3		ア	研修応募者数（小・中・ 高校生）	人	35 35	30 33	30 40	50	50	50	
（個別目標）			2	多様な志を育むまち		主な費目	旅費、負担金補助及び交付金						イ								
（施策）			2	社会教育の充実		対象	青少年						成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
														(実績)	(実績)	(実績)					
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる		事業期間	R7 年度～ R7 年度（ 1 年間）						ア	研修参加者数（小・中・ 高校生）	人	35 20	30 24	30 28	35	35	35
（施策）			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト									イ								
(1) 総事業費の推移		単位		5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価									
年間 事業費 比率 コスト	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	民間等が行う海外研修は、自己負担が大きい。事業に参加した学校、保護者等からは青少年育成に効果的である事業なので継続すべきとの意見がある。 海外でのホームステイの経験によって、幅広い視野と国際感覚、生活習慣・文化の違いを学ぶことができ、かつ語学力の向上が期待できること、また地域のリーダーとなる広い視野を持つ青少年育成を図る。									
		その他特定財源	千円																		
		一般財源	千円	5,080	5,358	6,100	6,337	6,500	6,500												
		事業費計 (A)	千円	5,080	5,358	6,100	6,337	6,500	6,500												
		所要人員 (年間)	人	0.700	0.700	0.700	0.700	0.700	0.700												
		人件費概算 (B)	千円	3,920	3,920	3,920	3,921	3,921	3,921												
(A) + (B)		千円	9,000	9,278	10,020	10,258	10,421	10,421													
(2) 事業概要																					
事業目的	青少年を国外に派遣し、異文化、異言語を体験させ、自己の確立と地域のリーダーを育成を図る。また、国内においても外国語とふれあい、興味を持つことで異文化・多文化共生への学びの意欲を育む。										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	国際交流、国際感覚と語学力向上、生活習慣・文化の違いを学ぶ異文化理解の場の提供として、募集、計画、事前研修等に関して行政の支援が必要であり、補助金については、研修費用に係る経費であり削減は難しい。								
事業内容	・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援 等 ・国内研修事業の企画、運営																				
開始経緯	平成6年度から様々な研修事業に取り組んできており、現在ではアメリカ合衆国及び台湾への海外研修とイングリッシュキャンプ（国内研修）としている。										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	参加者募集・周知を図りながら、多くの児童・生徒に異文化、異言語を体験させ、多文化共生社会を生きる世代の自己の確立と地域のリーダーを育成を図る必要がある。								
実施状況	中学生、高校生対象のアメリカ合衆国及び台湾への海外研修、小中学生対象のイングリッシュキャンプを実施しており、多くの参加希望があることから、作文、面接等により選考している。																				
成果	令和4年度から2泊3日のイングリッシュキャンプを行い、対象者の異文化への理解促進と外国語を学ぶ意欲の向上が図れた。令和8年度から新たに台湾への国外研修を創設し、多くの反響があった。										改革 改善 案	○	拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	国外研修の研修先であるアメリカ合衆国の経済状況と円安により事業費の高騰が続いている。事業の趣旨、目的の達成が研修先を変更しても可能であれば、様々な選択肢を視野に検討する必要がある。											国外研修については、これまでの英語圏に加え、アジア各国を対象とした事業にも視野を広げることが必要である。世界の経済状況や治安を把握し、研修先の選択肢を多く持つことも検討する必要がある。									

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ジュニアリーダー・インリーダークラブ (JACOクラブ) 支援事業		事業番号 1057	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度							
					担当G	社会教育グループ					活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)						
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	クラブ会員数	人	30	30	30	30	30	30					
(個別目標)			2			多様な志を育むまち		主な費目	負担金補助及び交付金						イ	活動回数 (年間)	回	12	12	12	15	15	15		
(施策)			2															社会教育の充実		対象	ジュニアリーダー・インリー ダークラブ会員				
(基本目標)		3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる		事業期間	令和3 年度～ 年度 (年間)					ア	参加した延べ人数	人	300	300	300	300								
(施策)		5												こころざしアップ教育推進プロジェクト		事業期間	令和3 年度～ 年度 (年間)					イ	リーダーとしての責任や 自覚が持てた会員数	人	30
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価														
年間 トータル コスト	事業費 内訳	財源	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	ボランティア活動や体験活動、研修への参加を積極的に 希望する児童・生徒・保護者もあり、活動・研修内容の見 直しや募集方法を検討しながら、クラブ員の確保を図って いる。												
		財源	その他特定財源	千円																					
		財源	一般財源	千円	666	666	666	640	640	640															
		事業費計 (A)	千円	666	666	666	640	640	640																
		所要人員 (年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200																
必要経緯	開始経緯	人件費	人件費概算 (B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	これまで活動や研修内容が類似していたジュニアリー ダー・インリーダークラブを統合することにより、異年齢 交流や研修内容の充実により、地域リーダーの育成を図る 必要がある。												
		(A) + (B)	千円	1,786	1,786	1,786	1,760	1,760	1,760																
(2)事業概要																									
事業目的		ジュニアリーダー・インリーダークラブを統合したクラブを設立し、ボランティア活動や自然体験研修な ど異年齢集団での交流を通して、地域リーダーを育成を図る。										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	ボランティア意識の低下や部活動や学業等の優先など、 学校や保護者などの理解や協力を得ながら、活動・研修内 容の見直しや募集方法を検討しながら、クラブ員の確保を 図る。											
事業内容		・補助金交付事務 ・各会議等の連絡調整、資料作成や助言、活動支援 等 ・自然体験活動・研修、ボランティア活動、異年齢交流等 事業企画運営																							
実施状況		ジュニアリーダー・インリーダークラブがそれぞれ活動していたが、活動や研修内容が類似していること から、令和2年度から合同での開催とした。小学生から高校生までの異年齢の活動であったが、それぞれの 役割を理解し、充実した活動が展開されている。										改革 改善案													
成果		ジュニアリーダー・インリーダークラブの合同での開催により異年齢交流や研修内容の充実し、地域リー ダー育成が図られた。											拡充		○	現状維持	改善		効率化		廃止終了				
課題		地域のリーダーを育成するため、活動内容を常に見直し、更なる活動の充実を図る必要がある。																							

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名				志布志市文化会館指定管理料			事業番号	担当課	生涯学習課			(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度			
							1066	担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
									会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン （基本目標）				振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	1	10	4	7		ア	開館日数	日	310	310	310	310		
(個別目標)				振興計画体系	2	多様な志を育むまち			主な費目	指定管理料				イ									
(施策)				振興計画体系	1	生涯学習の推進			対象	市民			成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
(基本目標)				総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								(実績)	(実績)	(実績)							
(施策)				総合戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト			事業期間	H28 年度～ 年度（ 年間）			ア	施設の利用回数	回	1,500	1,500	1,500					
														イ	利用者数	人	48,600	48,600	48,600				
																	43,157	43,169	46,730				
(1)総事業費の推移				単位		5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価									
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円								有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	施設の老朽化により施設・設備の不備が発生しており、計画的な改修工事を実施することで利用者の利便性及び安全性の向上が図られる。 市の文化振興の中核施設であり、利用者数も多いことから、廃止・休止は困難である。 類似施設として松山地区にやっちくふれあいセンターがあるが、施設規模、周辺環境が異なるため、統廃合は困難である。									
			その他特定財源	千円																			
			一般財源	千円	26,230	26,612	26,611	30,452															
		事業費計 (A)		千円	26,230	26,612	26,611	30,452	0	0													
		所要人員 (年間)		人	0.100	0.100	0.100	0.100															
		人件費概算 (B)		千円	560	560	560	560	0	0													
		(A) + (B)		千円	26,790	27,172	27,171	31,012	0	0													
(2)事業概要												効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	光熱水費等の管理費については、指定管理者の運営方法により経費削減が図られている。その他の経費（人件費、委託料、修繕費）は、削減の余地がない。 指定管理に伴う委託業務のため、人件費及び業務時間の削減の余地はない。									
事業目的	文化施設の管理業務を民間団体に委託・管理させることにより、民間のノウハウを活用しつつ、より一層の市民サービスの向上と経費の節減を図る。																						
事業内容	文化会館の文化ホール・集会室等については、その設置目的に基づき、効率的、効果的に管理・運営を行う必要がある。それらの管理運営業務を指定管理者に委任する。但し、自主文化事業の企画・実施、舞台関係の操作管理業務は除く。																						
開始経緯	施設の管理は、平成18年8月まで、志布志市公共施設等管理公社へ管理委託していたが、地方自治法の改正に伴う管理委託制度の廃止により平成18年9月から指定管理者制度へ移行した。																						
実施状況	コミュニティセンター志布志市文化会館 指定管理料 30,452,000円（令和8年度） 指定管理者 特定非営利活動法人志布志生涯学習センター 指定管理期間 令和8年4月1日から令和13年3月31日まで										達成度評価	市民の方々が安心して使用できる状態を継続できている。											
成果	指定管理者制度の導入により、事務の簡略化、時間外での対応、迅速な施設修繕等を行うことで、文化施設利用者の利便性、安全性が向上している。																						
課題	施設の老朽化が進んでおり、年次的な改修（リニューアル工事）計画及び実施について、公共施設の個別管理計画により進めていく必要がある。										改革改善案												

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		施設管理業務委託事業			事業番号	担当課	生涯学習課			(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度					
					1065	担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)					
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	3施設の舞台（ホール） 利用回数		回	500 500	500 434	500 430	500 /	500 /	500 /	
（個別目標）			2	多様な志を育むまち				主な費目	委託料			イ											
（施策）			1	生涯学習の推進					対象	3施設（文化会館、ふれセン、有明地区公民館）の利用者				成果指標（成果・効果）			単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる			事業期間	年度～ 年度（ 年間）			ア	施設の利用回数		回	1,500 1,136	1,500 1,121	1,500 1,345	1,500 /	1,500 /	1,500 /			
（施策）			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト						イ		利用者数			人	48,600 43,157	48,600 43,169	48,600 46,730	48,600 /	48,600 /	48,600 /		
(1)総事業費の推移			単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)		(4)評価			所管課による評価									
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	専門的な知識・資格を有し実績のある業者は市内には他に なく、設備管理、舞台運営を円滑に実施しているため、向上の 余地はない。 施設の運営には不可欠な業務であるため、廃止はできない。 受注業者は市内に一者しかいないため、随意契約となっている。 仮に市外の業者に委託した場合、契約金額が高額になる 可能性が高い。											
		財源内訳	その他特定財源	千円																			
	財源内訳	一般財源	千円	9,900	9,900	9,900	9,900																
	事業費計（A）		千円	9,900	9,900	9,900	9,900	0	0														
	所要人員（年間）		人	0.050	0.050	0.050	0.050																
	人件費概算（B）		千円	280	280	280	280	0	0														
	（A）＋（B）		千円	10,180	10,180	10,180	10,180	0	0														
(2)事業概要													効率性 評価										
事業目的	舞台吊物音響照明操作等の専門業務を委託することにより、安全かつ適正な操作及び施設の管理を行うため、専門業者に委託する。																						
事業内容	文化会館等の舞台吊物音響照明等の操作業務を、専門的な技術をもつ業者に業務委託する。（志布志市文化会館・やっちくふれあいセンター・有明地区公民館の3施設）																						
開始経緯	合併前は、志布志市文化会館の1施設のみの管理運営体制であったが、現在は、3施設を1人常駐と補充者で運営している。3施設でイベント等が重なった場合、大がかりな仕掛けが必要な場合等には、物理的に人員の補充が不可欠となる。																						
実施状況	志布志市文化会館、やっちくふれあいセンター、有明地区公民館の3施設に対して舞台吊物音響照明操作等の専門業者1人を常駐とし、催物が重複した場合は従事者（有資格者を含む）を補充した。																						
成果	設備の適正な管理を行うことで、利用者からの要望に適切に対応し、各種文化事業、集会等を円滑に実施することができた。										改革 改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了		
課題	設備（照明、音響機器等）の経年劣化のため、舞台等の事業実施中に不具合が発生する可能性が危惧されており、機器の更新をする必要がある。																						

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市文化協会補助金			事業番号	担当課	生涯学習課				(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
						1063	担当G	社会教育グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン （基本目標）			振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	文化祭等の開催	回	4	4	4	4	4	4
（個別目標） <td>2</td> <td colspan="3">多様な志を育むまち</td> <td rowspan="2">主な費目</td> <td colspan="4">補助金</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>				2					多様な志を育むまち			主な費目	補助金									
（施策）			総合戦略	1	生涯学習の推進			対象	市民				成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（基本目標）				3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								事業期間	平成19年度～ 年度（ 年間）		ア	市文化協会会員数		人	900 633	900 633	900 633
（施策）				5	こころざしアップ教育推進プロジェクト			イ	市文化協会の加盟団体数		団体	105 78					105 79	105 79	105	105	105	
(1)総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	文化協会の会員が高齢化しており、地域の芸術・文化振興を担う人材育成の観点から新規団体の加盟及び会員の加入促進が必要である。 廃止・休止の場合、文化協会の活動の鈍化し、地域の文化芸術が衰退する可能性がある。 文化協会の類似団体は市内には存在しないため、統廃合は困難である。 各支部に配分する運営費について、会員数を基に分配しており、公平である。									
			その他特定財源	千円																		
			一般財源	千円	996	996	996	996														
		事業費計（A）	千円	996	996	996	996	0	0													
	人件費	所要人員（年間）	人	0.200	0.200	0.200	0.200															
		人件費概算（B）	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	0	0													
		(A)＋(B)	千円	2,116	2,116	2,116	2,116	0	0													
(2)事業概要													効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	平成28年度に旧３町の文化協会が合併し、平成29年度から志布志市文化協会が発足した。今後は、事業の見直し（研修、広報誌の発行等）を実施するが、運営費の依存が高く、事業費を削減することで文化協会の活動の鈍化し、地域の文化芸術が衰退する可能性があるため、削減の余地はない。 補助金支給事務及び市文化協会の活動支援を行っており、削減の余地はない。							
事業目的	市文化協会の芸術文化に関する活動を支援することで、市文化協会の活動内容の活性化と、地域の芸術文化の振興を図る。																					
事業内容	文化団体に加入している会員が、文化活動に自ら参加し、積極的に学習に取り組み、芸術文化の振興を図る。 併せて、各地区の既存の文化協会相互の交流を図る。																					
開始経緯	18年１月の合併以前は、それぞれの地区（松山、志布志、有明）の文化協会の活動があったが、それらを調整・統合するための組織が必要となったので、20年３月に連絡協議会を設立した。																					
実施状況	本市の芸術文化の振興を図るため、文化団体に加入している会員が文化芸術活動に積極的に取り組むとともに、各支部文化協会の相互の交流を図った。										達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	それぞれの支部での活動が活発であり、支部祭なども例年通り開催できた。									
成果	市文化協会及び各支部文化協会による芸術祭については、支部の加入団体で運営し、それぞれの開催地域で日頃の活動成果を披露する機会となり、市民に対して地域の芸術、文化の発信を行った。																					
課題	会員が高齢化しており、組織運営及び芸術文化の技術継承のために新規団体の加盟及び会員の加入促進を図る必要がある。																					
													改革改善案									

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		自主事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
				444	担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	開催回数	回	3	3	3	3	3		
（個別目標）			1			10	4	5		4					6					
（施策）		総合戦略	2	多様な志を育むまち	主な費目	委託料					イ									
（基本目標）			1	生涯学習の推進	対象	市民						成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
（施策）			3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								ア	入場者数	人	1,200 2,556	1,200 2,656	1,200 3,802			
		5	こころざしアップ教育推進プロジェクト	事業期間	昭和52年度～ 年度（ 年間）					イ										
(1) 総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費 内訳 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	公演内容（講演会・コンサート等）の選考、広報活動の強化することで、更なる成果の向上も期待できる。 廃止・休止の場合、市民の質の高い生の芸術文化（講演会・コンサート等）を鑑賞する機会の喪失し、地域の文化芸術が衰退する可能性がある。 類似事業を行っている団体・機関がない。 市内全域に周知活動を行い、チケットも同一金額で販売していることから、公平である。							
			その他特定財源	千円	3,513	5,458	5,458	7,205												
			一般財源	千円	7,411	5,189	5,189	10,853												
			事業費計（A）	千円	10,924	10,647	10,647	18,058	0	0										
			所要人員（年間）	人	0.800	0.800	0.800	0.800												
			人件費概算（B）	千円	4,480	4,480	4,480	4,481	0	0										
				(A) + (B)	千円	15,404	15,127	15,127	22,539	0	0									
(2) 事業概要																				
事業目的	鑑賞型芸術文化事業等を企画実施し、市民に優れた舞台芸術鑑賞の機会を創出し、市民生活の潤いと心の豊かさを高める。																			
事業内容	コンサート公演、文化講演会、ミュージカル公演等の開催により地域の文化振興や文化意識の高揚を図り、地域の活性化と市民生活に潤いを与える。																			
開始経緯	昭和51年旧志布志町文化会館開館時から開始し、市民に多彩な文化芸術（講演会・コンサート等）に触れる機会を提供することを目的とした事業である。																			
実施状況	(1) 演劇集団インディゴプランツ「桜舞」 (2) 鹿児島交響楽団志布志市コンサート (3) 森口博子コンサート (4) 少年ゴンザ物語 (5) ANA会長講演会 (6) 劇団四季ファミリーミュージカル「王子と少年」																			
成果	宝くじ公演の事業や株式会社コバルト技研の協賛があり、数多くの自主文化事業を実施することが出来た。すべての公演において好評を得ることができた。																			
課題	社会情勢の変動により、委託料の高騰が危惧される。																			
												拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
改革改善案																				

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		青少年芸術鑑賞事業		事業番号	1064		担当課	生涯学習課			(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度											
							担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)											
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	実施する事業数	種類	11 10	11 10	11 10	11 11	11 11									
（個別目標）		振興計画体系	2	多様な志を育むまち			主な費目	委託料					イ																
（施策）		振興計画体系	1	生涯学習の推進			対象	市内の小・中学校の児童・生徒					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)									
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる									ア	事業実施学校数	校	11 10	10 10	11 10	11 10	11 11	11 11								
（施策）		総合戦略	5	こころざしアップ教育推進プロジェクト			事業期間	年度～ 年度（ 年 年間）					イ																
(1) 総事業費の推移		単位		5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価																	
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市内の小・中学校を2グループに分け、2年に1回、芸術を鑑賞する機会を提供しており、回数、日程調整等も適切である。質の高い芸術鑑賞の機会が喪失することで、児童・生徒の感情を育む機会が失われる。国・県主催の類似事業があるが、毎年ではない。国・県の主催事業があるが、鑑賞する学校が限定され、公平性が保持できない。市内の全ての小・中学校で実施しているため、公平・公正である。																	
	財源内訳	その他特定財源	千円																										
	一般財源	千円	1,650	1,816	1,650	1,815																							
	事業費計 (A)	千円	1,650	1,816	1,650	1,815	0	0																					
	所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100																							
	人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	0	0																					
(A) + (B)		千円	2,210	2,376	2,210	2,375	0	0	効率性 評価		・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	事業費を削減した場合、鑑賞する内容の質の低下につながるため削減の余地はない。 事業内容の選定、契約事務等外部委託できない業務を行っており、削減できる余地はない。																	
(2) 事業概要										達成度 評価										・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	芸術鑑賞の機会は、地理的に不利にある状況から、公的に支援する必要がある。より良い芸術に、地方にいても触れられる機会を設ける機会となっている。								
事業目的	青少年に優れた舞台芸術鑑賞の機会を与え、芸術に対する興味・関心を持たせることで、心豊かな青少年の育成を図る。								達成度 評価																				
事業内容	市内の青少年に対して、優れた舞台芸術鑑賞の機会を与え、芸術に対する興味・関心をもたせ、創造的な芸術文化の情操形成に資する。								達成度 評価																				
開始経緯	健全な心身を持つ児童・生徒を育むため、旧志布志町及び旧松山町が合併以前から実施している。								達成度 評価																				
実施状況	馬頭琴演奏 8校（令和7年度：森山小学校、野神小学校、通山小学校、田之浦小学校、香月小学校、有明小学校、伊崎田小学校、尾野見小学校） 宮井紀行アコースティックコンサート 2校（令和7年度：志布志中学校、有明中学校）								達成度 評価																				
成果	令和6年度、7年度にて、市内のすべての小学校、中学校にて開催することが出来た。 学校からの要望が多かった事業であり、開催にあたり児童・生徒たちの芸術文化の意識向上に役立てることができた。								改革改善案		拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了													
課題	演目の選定																												

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志市文化会館リニューアル事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度							
					担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	7	備考	ア	工事・修繕箇所数	箇所	0	0	0								
（個別目標）		2	多様な志を育むまち		主な費目	工事費、委託料					イ														
（施策）		1	生涯学習の推進		対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)							
（基本目標）		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる							ア	利用者数	人	48,000	48,000										
（施策）		5	こころざしアップ教育推進プロジェクト		事業期間	平成21 年度～ 年度（ 年 年間）					イ														
(1) 総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4) 評価					所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費 内訳	財源	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	施設の利便性及び安全性の向上を目的に事業を実施するための改修工事であるため、向上の余地はない。 施設の不具合等が改善されず、利用者の事故等につながる可能性がある。 当該施設の改修・改善工事であるため、類似事業はない。 改修・修繕工事を行うことで、利用者全てに恩恵があるため、公平である。										
		財源	その他特定財源	千円																					
		財源	一般財源	千円	0	0																			
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0																
		所要人員 (年間)	人	0.100																					
		人件費概算 (B)	千円	560	0	0	0	0	0																
(A) + (B)		千円	560	0	0	0	0	0	0	0	0														
(2) 事業概要																									
事業目的	志布志市文化会館の設備に不備がある場合、適宜、修繕等を実施することで安全かつ適正な施設の管理ができる。																		効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	改修・修繕工事が主な事業費であるため、削減の余地はない。 主な業務内容は改修箇所調査・入札準備等で、人件費及び業務時間の削減の余地はない。				
事業内容	志布志市文化会館は、築46年を経過し、建物や設備等の更新・改修の箇所が緊急的なものを含め多く発生している。19年度に基本計画を策定し、21年度以降、ホール棟・管理棟において各種の増設、改修等工事を行っている。今後の工事としては、ホール内の座席取替が残る。																								
必要経緯	昭和51年5月に開館して以後、施設の老朽化により不良箇所が発生している。また、当会館は旧来の構造であるため利用者のニーズに応えるには、ホール内の仕様改良・バリアフリー化・駐車場不足解消等の改修が必要に迫られている。																		達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	施設の老朽化が進んでおり、施設・設備の更新が急がれる状況であるが、高額な予算を必要とするため進んでいない。				
実施状況	【令和5年度】コミュニティセンター志布志市文化会館屋上防水工事 契約金額：18,975,000円 契約相手方：有限会社 川間塗装工業 修繕概要：文化会館ホール屋上部分の防水工事																								
成果	屋上防水改修工事を実施したことにより、利用者の安心・安全で快適な文化施設としての利用が図られた。																		改革改善案	○ 拡充 現状維持 改善 効率化 廃止終了					
課題	館内のLED化や音響・舞台照明施設、観客席などの更新を年次的に実施する必要がある。																								

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		創年市民大学開設業務委託事業			事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度					
						担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)					
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	講義・講演数（プログラム数）	回	15 14	15 14	15 15	15 15	15 15					
(個別目標)			2	多様な志を育むまち				主な費目	委託料					イ											
(施策)			1	生涯学習の推進					対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる			事業期間			平成16年度～ 年度（ 年間）					ア	市民大学生数	人	70 64	70 64	70 75	70 70	70 70			
(施策)			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト																					
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	入学生を増加させまちづくりを学ぶ人材確保に努めるとともに、自主研究グループを中心にまちづくり活動（実践）を推進する。 市民がまちづくりを学ぶ場及び関心の喪失につながり、市が目指す共生・協働・自立のまちづくりの推進が鈍化する。 まちづくりの人材を推進する事業がない。 まちづくりに関心のある人はだれでも受講でき、学生一律の受益者負担があるため、公平である。										
			その他特定財源	千円																					
			一般財源	千円	1,375	1,540	1,540	1,640																	
		事業費計（A）	千円	1,375	1,540	1,540	1,640	0	0																
	人件費		所要人員（年間）	人	0.100	0.100	0.100	0.100																	
			人件費概算（B）	千円	560	560	560	560	0	0															
		(A)＋(B)	千円	1,935	2,100	2,100	2,200	0	0																
(2)事業概要																									
事業目的	少子高齢化社会の活性化と市民を主役にした生涯学習のまちづくりの推進を図るために「創年と子どものまちづくり」と「地域学から始まるまちづくり」の2つの「志」を掲げ、「人財(布)」を育む市民大学として開設する。														効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	事業費の削減した場合、カリキュラム内容の質が低下又はカリキュラム回数が減少するため、削減の余地はない。 NPO生涯学習センターと連携して事業を展開し、委託契約事務及び市民大学開講支援を行っており、削減の余地はない。								
事業内容	創年と子どもの交流により、創年にはこれまで培ってきた経験と能力を活かして子どもに対する指導を通じて生きがいをもたらし、子どもには創年に対する尊厳と地域で生きる知恵を継承する全国初のモデル事業であり、創年市民大学は、市民を主役にした生涯学習のまちづくりの推進を図る目的に開学している。																								
開始経緯	平成16年に旧志布志町で宣言された創年と子どものまち宣言事業の一環として、人材づくりを目的に開校した。																								
実施状況	創年と子どものまち宣言事業の一環として、人材を育む市民大学として、平成16年に開校し、第22期を迎えた。																								
成果	第21期創年市民大学は6月6日（金）に開校し、新入生15名を含む64人が学生登録を行った。全14回の講座の中には、学生以外も受講できる、公開講座も開催しており、「オーロラ・フォトライブ」では、250人の受講者があった。今年度は「キッズワークランド」と題して、子供たちの職業体験の場を提供し、10事業所の協力があり、190名の児童が参加した														改革 改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	在校生の高齢化と固定化に伴い、活動が停滞しつつある。																								

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生涯学習推進事業			事業番号	担当課	生涯学習課				(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
					440	担当G	社会教育グループ				活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
							会計	款	項	目	備考			(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	1	10	4	4		ア	公募講座数	講座	140 96	140 96	140 90	140	140	140
（個別目標）			2	多様な志を育むまち		主な費目	委託料				イ	短期体験講座数	講座	20 23	20 23	20 27	20	20	20	
（施策）		総合戦略	1	生涯学習の推進		対象	市民				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
（基本目標）			3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる								ア	公募受講者数	人	2,600 1,319	2,600 1,319	2,600 1,263	2,600	2,600	2,600
（施策）			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト		事業期間	平成3年度～ 年度（ 年間）				イ	短期体験受講者数	人	200 197	200 224	200 288	200	200	200	
(1)総事業費の推移			単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	生涯学習の受講生は女性を中心に受講しており、男性が受講しやすい講座の開発及び講座の情報発信を行うことで受講生の向上を図る。市民の生涯学習に対する意欲低下、生きがいつくり、仲間づくりの場の喪失につながる。生涯学習講座ではきっかけづくりとなる初心者向けの講座を中心に安価で提供する等、民間企業が提供している講座と重複しないようにしている。各講座一律の受益者負担を設定しており、講座には市民全員が参加することが可能であることから、公平性は保たれている。								
			その他特定財源	千円																
			一般財源	千円	25,362	25,622	25,622	26,654												
	人件費		事業費計 (A)	千円	25,362	25,622	25,622	26,654	0											0
			所要人員 (年間)	人	0.200	0.200	0.200	0.200												
			人件費概算 (B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	0											0
	(A) + (B)	千円	26,482	26,742	26,742	27,774	0	0												
(2)事業概要										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	生涯学習講座数及び受講者数の増加のため、新規講座の開発、講座の情報発信等を推進しており、削減の余地はない。 生涯学習講座数及び受講者数の増加のため、NPO生涯学習センターと連携して事業の支援を行っており、削減の余地はない。								
事業目的	生涯学習のまちづくりを推進するため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」をテーマに、市民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、学んだことを地域社会に還元する生涯学習社会の形成に寄与する。																			
事業内容	生涯学習推進委員会の諮問を受け、NPO志布志生涯学習センターによる生涯学習講座の開設及び学習成果の発表（生涯学習フェスティバル）、広報誌の発行等を委託する事業である。 生涯学習推進委員会とは、生涯学習の普及と推進を目的に教育委員会が設置した団体であり、任期は3年で現在23名の委員を委嘱している。																			
開始経緯	官民一体となった生涯学習の推進を目指し、平成3年に生涯学習講座の開設をさわやか生涯学習センターへ移管すると同時に本事業を開始した。平成7年、生涯学習推進委員会を設置し、その執行機関として生涯学習センターを開所した。また、平成25年度からは、生涯学習センターのNPO化に伴い補助事業から委託事業へ変更し、生涯学習推進委員会は諮問機関として位置付けた。																			
実施状況	(1) 委託先：特定非営利活動法人志布志生涯学習センター (2) 公募講座（1講座につき8名以上の受講者で開設）								達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	本市の生涯学習については、県内でも大規模に取り組んでいる事業であり、旧志布志町から継続しているものである。 受講生の数についても、近隣市町とは比較にならないほど多い。									
成果	公募講座を90講座1,263人、短期講座を14講座125人、体験学習を13講座163人が受講した。講座の計画及び実施については、NPO志布志生涯学習センターと各条例公民館主事が連携し、官民一体となった推進体制が確立している。令和7年2月22日（日）に生涯学習フェスティバルを開催し、学習の成果を発表することができた。																			
課題	新規講座の開設に努力しているものの、講座生の固定化及び高齢化に加え、人口減少が続く中で、新規受講生の開拓がさらに難しい状況となっている。																			
										改革改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志運動公園運動施設指定管理事業			事業番号	担当課	生涯学習課			(3)指標の推移		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度											
					1072	担当G	社会教育グループ			活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)											
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	管理体育施設数		箇所	8 8	8 8	8 8	8 8	8 8	8 8						
(個別目標)			2	多様な志を育むまち				主な費目	需用費、役務費、委託料、原材料費、負担金補助 及び交付金					イ														
(施策)			3	スポーツ活動の推進			対象		市民						成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)					
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる				事業期間						平成18年度～ 年度（ 年間）			ア	利用者数		人	200,000 195,296	200,000 179,766	200,000 172,675	200,000 171,554	200,000	200,000	200,000	
(施策)			5	観光パワーアッププロジェクト			イ																					
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)			6年度 (実績・決算)		7年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		8年度 (計画・予算)		(4)評価							所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性 評価	市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性		市民のスポーツ活動の推進のために、欠かすことのできない施設だが、施設の老朽化に伴い、修繕等必要な箇所が増えている。また、スポーツ交流（合宿）人口の増加、競技人口の減少・多様化により競技に応じた施設整備が必要となっている。要望に対応した整備を行うことで、更なるスポーツ活動の推進を図ることができる。												
			その他特定財源	千円																								
			一般財源	千円	48,426	474,476	47,866	49,596	50,818																			
	人件費		事業費計（A）	千円	48,426	474,476	47,866	49,596	50,818	0																		
			所要人員（年間）	人	0.050	0.050	0.050																					
			人件費概算（B）	千円	280	280	280	0	0	0																		
		(A) + (B)	千円	48,706	474,756	48,146	49,596	50,818	0																			
(2)事業概要																												
事業目的	志布志運動公園の運動施設の管理業務を委託する。																	効率性 評価	事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携		施設の管理、運営に係る必要最小限の経費等で委託しており、物価高騰により原材料費、燃料費等も上がる等の社会情勢の影響も大きく受けていることから、自助努力だけでは費用の削減は難しい。							
事業内容	運動公園の運動施設の管理業務委託																											
開始経緯	昭和34年の陸上競技場の完成を始めとして、その後体育館・多目的広場等の体育施設が整備され、志布志運動公園の運動公園施設として管理している。平成18年度途中から指定管理者制度を導入し、指定管理者の選定を行い、協定を結び管理を委託している。																	達成度 評価	数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		適切な管理、運営が実施されており、施設全体で18万人程度に利用されている。市民のスポーツ、余暇、健康増進を更に図るためにも、今後も適切な管理、運営が必要である。							
実施状況	特定非営利活動法人志布志スポーツクラブへ管理業務を委託している。																											
成果	指定管理者へ管理委託を行い、施設に密着した管理、運営を行うことにより、施設利用者の利便性の向上が図られた。																	改革改善案	拡充		現状維持		○ 改善		効率化		廃止終了	
課題	志布志運動公園体育館の改修工事を令和4年度から5年度にかけて実施したが、他の施設の老朽化、経年劣化等による不具合の発生しており、今後も計画的な改修・修繕が必要である。																		利用者の要望を踏まえた施設整備の必要がある。									

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		志布志運動公園の運動施設改修事業		事業番号	担当課	生涯学習課		(3)指標の推移		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
					担当G	社会教育グループ		活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
					予算科目	会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)			
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			1	10	5	2		0	0	0		
(個別目標)		2	多様な志を育むまち		主な費目	工事請負費、委託料 ※令和4年度逐次繰越分含む										
(施策)		3	スポーツ活動の推進		対象	市民 管理体育施設数		成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる					ア	利用者数	人	200,000	200,000				
(施策)		5	観光パワーアッププロジェクト		事業期間	H18 年度～ 年度（ 年 年間）		イ								
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市民のスポーツ、余暇、健康増進を図る目的で設置された施設であり施設の修繕、改修により、施設を安全・快適に利用できるようになり、スポーツ施設の利用者が増加、スポーツの振興が図られる。					
	財源内訳	その他特定財源	千円													
		一般財源	千円	0	0	0	0									
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0								
	人件費	所要人員 (年間)	人	0.100	1.100	0.000	0.000									
		人件費概算 (B)	千円	560	6,162	0	0	0								0
(2)事業概要		(A) + (B)	千円	560	6,162	0	0	0	0							
事業目的	社会体育施設の改修、更新を実施し、利用者の利便性・安全性の向上及び施設周辺住民の安全性を確保する。								効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	各施設の維持管理をおこなう上で、老朽化・利便性による不具合箇所を解消するためには、改修工事が必要な箇所があり、利用者ニーズを把握しながら、優先順位等により年次的、計画的に行う必要がある。					
事業内容	利用者が施設を快適、安全に利用し、スポーツを楽しめるよう施設の老朽化による改修工事やゾーニングに基づく地域の特性に合わせた施設整備を推進しながら、改修工事を実施する。															
開始経緯	施設を設置した時から、体育施設の善良な維持管理を行うために開始された。								達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	令和4年度から令和5年度にかけて志布志運動公園体育館及び志布志運動公園武道館の改修工事を行い、屋根防水、外壁塗装等の改修を実施した。					
実施状況	老朽化による修繕だけではなく、スポーツ合宿等に対応するための改修を実施している。令和4年度から令和5年度において、志布志運動公園体育館改修工事を実施した。															
成果	これまでの改修等で、利用者の利便性・安全性の向上が図られた。								改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了	
課題	老朽化による大規模な修繕が必要な施設が複数あり、大きな財政負担が生じるため、今後も計画的及び年次的な整備が必要となっている。															

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名			志布志市スポーツ協会活動事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移			5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度					
					1069	担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)					
まちづくりプラン （基本目標）			振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	理事会の開催	回	3 1	3 1	3 1	3 1	3 1	3 1				
（個別目標）				2	多様な志を育むまち			主な費目	負担金補助及び交付金					イ											
（施策）				3	スポーツ活動の推進		対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
（基本目標）			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる		事業期間		H18 年度～ 年度（ 年間）					ア	加盟団体数	団体	19 19	19 19	19 19	19 19	19 19	19 19				
（施策）			5	観光パワーアッププロジェクト								イ													
(1)総事業費の推移			単位	5年度 (実績・決算)		5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		(4)評価					所管課による評価				
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円													有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	スポーツ協会は、社会体育の振興を図り、市民の体力の向上・健康の増進を推進するとともに、スポーツ精神を養うことを目的としており、現在競技団体やスポーツ少年団が加盟している。加盟についても、幅広く広げているため、公平・公正である。						
		財源内訳	その他特定財源	千円																					
		財源内訳	一般財源	千円	2,229		2,020		2,229		2,579		2,275												
	事業費計	(A)	千円	2,229		2,020		2,229		2,579		2,275		0											
	所要人員	(年間)	人	0.200		0.200		0.200		0.200		0.200													
	人件費概算	(B)	千円	1,120		1,120		1,120		1,120		1,120		0											
			(A) + (B)	千円	3,349		3,140		3,349		3,699		3,395		0										
(2)事業概要																									
事業目的		市民の体力向上と健康増進を図るとともに、組織の強化と競技力の向上を推進し、社会体育の振興を図ることを目的とする。																							
事業内容		内における社会体育の振興を図り、市民の体力の向上・健康の増進を推進するとともに、スポーツ精神を養うことを目的に平成18年度に市体育協会が設立された。現在は陸上競技、剣道、柔道など19競技団体（令和6年度末）が加盟している。令和5年度から「志布志市スポーツ協会」へ名称変更。																							
開始経緯		平成18年度に市体育協会が設立され補助金の交付要綱に基づき体育協会の運営費の補助を行っている。																							
実施状況		20競技団体へ育成補助金・競技力向上対策費を助成し、各競技団体の育成及びスムーズな団体運営が図られた。																							
成果		19競技団体を対象として育成補助金・競技力向上対策費を助成し、各競技団体の育成及びスムーズな団体運営が図られた。また、競技団体においてはスポーツの日を中心に、志布志市スポーツ振興大会を開催し、競技力の向上が図られた。																							
課題		スポーツ人口の増加のためには、スポーツ協会の各競技団体が市民ニーズの沿った、参加しやすい企画をしていく必要がある。																							

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名			しおかぜ公園管理事業			事業番号	担当課	生涯学習課	(3)指標の推移		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
						468	担当G	社会教育グループ	活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
まちづくりプラン （基本目標）			振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	会計	款	項	目	備考			
				2	多様な志を育むまち				主な費目	委託料、需用費、役務費						
（個別目標）				3	スポーツ活動の推進			対象		市民利用者					成果指標（成果・効果）	
（施策）			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる			事業期間		H22 年度～ 年度（ 年間）					単位		
（基本目標）			5	観光パワーアッププロジェクト									単位			
（施策）											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					
											単位					

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生涯スポーツ推進事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度				
				1255	担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
					予算科目	会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		10	5	1	1		ア	人口	人	31,500	31,500	28,000	28,000	28,000				
（個別目標）		2	多様な志を育むまち		主な費目		委託料				イ											
（施策）		3	スポーツ活動の推進		対象		ア）市民 イ）会員数 ウ）スポーツ教室実施数				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
（基本目標）		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる		事業期間		R1 年度～ 年度（ 年 年間）				ア	スポーツ教室実施数	回	20	20	20	20				
（施策）		5	観光パワーアッププロジェクト								イ											
(1) 総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	(4) 評価										所管課による評価			
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	クラブの設立により、市振興計画目標値である週1回以上 スポーツを行っている成人の割合65%以上の達成や、ス ポーツに対する市民の幅広いニーズに応えることができ る。											
	財源内訳	その他特定財源	千円																			
	一般財源	千円	2,600	2,600	2,600	2,600	3,030															
	事業費計 (A)	千円	2,600	2,600	2,600	2,600	3,030	0														
	所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100															
	人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	560	0														
(A) + (B)		千円	3,160	3,160	3,160	3,160	3,590	0	効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	クラブの安定した運営のために、会員の確保、クラブの広 報・周知及びスポーツ協会やスポーツ少年団等の各種団体 との連携が必要となる。											
(2) 事業概要																						
事業目的	スポーツを通じた健康増進、共生社会を目指し、市民の誰もが、いつでも、どこでも、気軽に、いつま でもスポーツに親しめる環境を整備するため、その活動の中心となる総合型地域スポーツクラブを設立・育成 する。											達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間	令和3年2月に「レインボー424スポーツクラブ」が立 ち上げられ、今後様々な活動の展開が期待できるが、継続 して財政面を含め援助が必要である。								
事業内容	特定非営利活動法人志布志スポーツクラブに、定期教室やイベントの開催を委託し、総合型地域スポーツク ラブ「レインボー424スポーツクラブ」が事業を実施する。																					
開始経緯	国のスポーツ振興基本計画に「全市町村に少なくとも1つの総合型スポーツクラブを置く」と定められて おり、市振興計画目標値である週1回以上スポーツを行っている成人の割合65%以上を達成するため、総合 型スポーツクラブの設置を推進することとなった。								改革 改善案	○ 拡充	現状維持	改善	効率化	廃止終了								
実施状況	令和3年2月に総合型地域スポーツクラブ「レインボー424スポーツクラブ」が設立され、事業が実施さ れている。																					
成果	令和7年度においては、子どもから高齢者向けの定期教室やイベントが開催され、延べ4,000人を超える参 加あり、スポーツの振興や健康増進、体力向上が図られた。																					
課題	クラブを立ち上げた当初は、財政的に厳しい状況が予想される。																					

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		スマートフォンアプリ「スポーツタウン 2023プログラム」利用事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度											
					担当G	社会教育グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)											
						会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)													
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		予算科目					10	5	1	1															
(個別目標)		2	多様な志を育むまち		主な費目		使用料及び賃借料					イ																	
(施策)		3	スポーツ活動の推進		対象		市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
(基本目標)		総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる		ア		参加者数					人	800	800														
(施策)		5	観光パワーアッププロジェクト		事業期間		R3 年度～ 年度（ 年 年間）					イ																	
(1) 総事業費の推移		単位		5年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	(4) 評価		所管課による評価																	
				(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)																				
年間 事業費 内訳 コスト	財源	国県支出金	千円							有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	市振興計画目標値である週1回以上スポーツを行っている 成人の割合65%以上の達成のために、気軽に取り組める ウォーキングやランニングを継続して取り組むために有効 である。																	
	財源	その他特定財源	千円																										
	財源	一般財源	千円																										
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0																					
	人件費	所要人員 (年間)	人																										
	人件費概算 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	平成30年度までマラソン大会を開催していたが、開催に伴 う事務の削減や大会当日の動員も不要となり、費用も抑え られる。																	
	(A) + (B)	千円	0	0	0	0	0	0																					
(2) 事業概要																				達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間	参加者を増やすことで、市振興計画目標値である週1回以 上スポーツを行っている成人の割合65%以上の達成に近づ けることができる。							
事業目的	スマートフォンのアプリを利用したランニング・ウォーキング大会を開催し、体力の向上と健康に対する意 識の高揚を図る。																												
事業内容	スマートフォンのアプリを利用したランニング・ウォーキング大会を開催する。アプリでは、大会参加時の ランキングだけでなく、毎日の走行距離等が確認でき、運動の継続へのモチベーションを確保できる。																												
開始経緯	令和2年度に、志布志市と株式会社アールビーズが包括連携協定を結んだことにより、同社が開催する「オ クトーバー・ラン&ウォーキング」の自治体対抗戦に参加した。新型コロナウイルス感染症の影響で様々な イベントが中止になる中で、影響を受けにくいイベントを今後展開していく必要がある。																												
実施状況	志布志市と包括連携協定を締結している株式会社アールビーズが提供する、ウォーキングの距離等が自動記 録されるスマートフォンアプリの使用。																												
成果	令和5年度においては、229名が登録しており市民の健康増進、体力向上が図られた。アプリ内では歩数や 走行距離も表示され、全国、県、市内毎に自身のランキングが表示されることから、日常の運動に対する意 識の向上とスポーツのきっかけづくりが図られた。									改革 改善案	拡充 現状維持 改善 効率化 ○ 廃止終了																		
課題	アプリの登録がうまくいかないという声もあり、今後改善が必要である。										高齢者でもアプリの登録が簡単にできるように、委託業者と連携していく。																		

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		城山総合公園の運動施設指定管理事業		事業番号	1190		担当課	生涯学習課		(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度			
							担当G	社会教育グループ（松山分室）		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
								会計 款 項 目 備考					(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	1 10 6 2		ア 管理体育施設数		箇所	5	5	5	5	5			
(個別目標)		2	多様な志を育むまち			主な費目	委託料		イ											
(施策)		3	スポーツ活動の推進			対象	市民		成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
(基本目標)		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる						ア 施設利用者数（体育館・多目的グラウンド・陸上競技場等）		人	55,000 42,346	55,000 58,397	55,000 55,270	55,000	55,000	55,000			
(施策)		3	公共施設最適化プロジェクト			事業期間	年度～ 年度（ 年間）		イ 施設利用者数（プール）		人	3,400 2,652	3,400 2,171	3,400 1,930	3,400	3,400	3,400			
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価			所管課による評価		
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円													有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性		市内・市外問わず利用できるスポーツ施設を維持管理することで市民の健康増進等に寄与している。 事務事業を廃止した場合、公共のスポーツ施設が無くなる事になり身近な市民の憩いの場所・野外レクリエーションの場所の提供が減ることになる。 公平性について、誰でも利用できる施設のため受益機会は妥当であり、受益者負担についてはH26年度に市内・市外利用者別に利用料金を見直した。	
	財源内訳	その他特定財源	千円	4,960		1,806		1,807		386										
		一般財源	千円	26,598		23,130		22,430		22,039										
		事業費計 (A)	千円	31,558		24,936		24,237		22,425		0								
	人件費	所要人員 (年間)	人	1,000		1,000		1,000		1,000										
		人件費概算 (B)	千円	5,600		5,600		5,601		5,601		0								
(A) + (B)		千円	37,158		30,536		29,837		28,026		0		0							
(2)事業概要																				
事業目的	城山総合公園の運動施設が適正に管理され、市民が安心して利用でき、体力向上・健康増進や心身の健全な発展につながる。																			
事業内容	城山総合公園の運動施設（体育館、陸上競技場、プール、テニスコート、多目的広場）の管理運営を行う事業である。現在は、指定管理者である志布志市シルバー人材センターが施設管理・運営を行っている。																			
開始経緯	昭和62年に城山体育館、昭和63年に多目的グラウンド等が整備され、窓口業務等は一部委託を行い管理を行ってきたが、H19年度から指定管理者による管理に移行した。その後、新規に増設したテニスコート3面を供用開始（H29年4月から）するなど管理施設の増加や既存施設の老朽化に伴う維持補修など管理の多様化が必要となってきた。																			
実施状況	城山総合公園の運動施設は、H19年度から指定管理者による管理を行っているが、各施設の老朽化に伴い修繕等必要な箇所が増加している。																			
成果	城山総合公園の運動施設は、指定管理者制度になって以降、市民からの利用に関する苦情等は以前よりも減少してきており、各施設における適正な管理運営が図られている。																			
課題	施設の老朽化により早期に修繕等を要する箇所が増えてきている。																			
		拡充		現状維持		改善		○ 効率化		廃止終了		事業の効率性改善のため、施設のインターネット予約システムの導入や利用料金の見直し、利用料金制の導入の検討を図る。								

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		松山体育施設管理事業		事業番号	471		担当課	生涯学習課		(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度					
							担当G	社会教育グループ（松山分室）		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
								会計 款 項 目 備考					(実績)	(実績)	(実績)							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	1	10	6	2			2	2	2	2	2	2			
(個別目標)			2	多様な志を育むまち			主な費目	需用費、役務費、委託料														
(施策)			3	スポーツ活動の推進			対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる									施設利用者数（体育館・多目的グラウンド・陸上競技場等）		人	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	
(基本目標)		総合戦略	4				事業期間	年度～ 年度（ 年 年間）						42,346	58,397	55,270						
(施策)			3	公共施設最適化プロジェクト									施設利用者数（プール）		人	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	3,400	
														2,652	2,171	1,930						
(1)総事業費の推移		単位		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	(4)評価									所管課による評価			
				(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)													
年間 トータル コスト	事業費 内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	市内・市外問わず利用できるスポーツ施設を維持管理することで市民の健康増進等に寄与している。 事務事業を廃止した場合、公共のスポーツ施設が無くなる事になり身近な市民の憩いの場所・野外レクリエーションの場所の提供が減ることになる。 公平性について、誰でも利用できる施設のため受益機会は妥当であり、受益者負担についてはH26年度に市内・市外利用者別に利用料金を見直した。										
		その他特定財源	千円	4,960	1,806	1,807																
		一般財源	千円	26,598	23,130	22,430	1,440															
		事業費計 (A)	千円	31,558	24,936	24,237	1,440	0	0													
		所要人員 (年間)	人	1,000	1,000	1,000	1,000															
		人件費概算 (B)	千円	5,600	5,600	5,600	5,601	0	0													
(A) + (B)		千円	37,158	30,536	29,837	7,041	0	0														
(2)事業概要																						
事業目的	松山地域の体育施設が適正に管理され、市民が安心して利用でき、体力向上・健康増進や心身の健全な発展につながる。																					
事業内容	松山体育施設（城山総合公園の運動施設、尾野見地区運動広場）の維持管理等を行う事業である。 なお、城山総合公園の運動施設については、指定管理者で対応できない部分を行う。																					
開始経緯	昭和62年に城山体育館、昭和63年に多目的グラウンド等が整備され、窓口業務等は一部委託を行い管理を行ってきたが、H19年度から指定管理者による管理に移行した。その後、新規に増設したテニスコート3面を供用開始（H29年4月から）するなど管理施設の増加や既存施設の老朽化に伴う維持補修など管理の多様化が必要となってきた。 また、尾野見地区運動広場は、直営にて環境美化作業やトイレ・グラウンド等維持補修などの管理に努めている。																					
実施状況	城山総合公園の運動施設は、H19年度から指定管理者による管理を行っているが、各施設の老朽化に伴い修繕等必要な箇所が増加している。 R7年度においては、プール止水栓・量水器口径変更修繕、テニスコート奥トイレ汚水桝修繕、尾野見地区運動広場トイレ漏水修繕を実施した。また、城山体育館の自動体外式除細動器（AED）の買替を行った。																					
成果	城山総合公園の運動施設は、指定管理者制度になって以降、市民からの利用に関する苦情等は以前よりも減少してきており、各施設における適正な維持管理が図られている。 運動施設のプール内設備及び公園内トイレの修繕を行うことにより、安全で快適な運動施設の利用が期待できる。																					
課題	施設の老朽化により早期に修繕等を要する箇所が増えてきている。																					
											改革 改善案	事業の効率性改善のため、体育施設の予約システムの導入や利用料金の見直しなどの検討を図る。 また、尾野見地区運動広場については、今後、コミュニティ協議会との連携を図り、利用形態や維持管理などについて方向性を模索していく。										

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		やっちくふれあいセンター指定管理事業		事業番号	1189		担当課	生涯学習課			(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
							担当G	社会教育グループ (松山分室)			活動指標 (実施状況)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
								会計 款 項 目 備考						(実績)	(実績)	(実績)			
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	1	10	5	7		ア	管理施設数	箇所	1	1	1	1
(個別目標)		3	文化を守り・育み・つなげるまち			主な費目	委託料				イ								
(施策)		1	文化芸術活動の推進と文化事業の充実			対象	市民			成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
(基本目標)		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる							ア	延べ利用者数	人	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	
(施策)		3	公共施設最適化プロジェクト			事業期間	H9 年度～ 年度 (年間)				イ								
(1) 総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費 内訳	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	施設の適正な維持管理及び運営を行うことにより、利用 者が快適に利用でき文化芸術への志向が高まり市民発表の 機会を提供できる。市民の文化活動の拠点施設であり、ま た保健機能施設も備えており廃止・停止の方向性は考えに くい。類似施設として志布志市文化会館があるが、施設規 模、周辺環境に大きな違いがあるため統廃合は難しい。 施設条例・管理規則に基づき利用料を徴収しており公 平・公正である。								
		その他特定財源	千円	4,960	559	560													
		一般財源	千円	26,598	51,336	50,318	21,915												
		事業費計 (A)	千円	31,558	51,895	50,878	21,915	0				0							
		所要人員 (年間)	人	1,000	1,000	1,000	1,000												
		人件費概算 (B)	千円	5,600	5,600	5,600	5,601	0				0							
(A) + (B)		千円	37,158	57,495	56,478	27,516	0	0											
(2) 事業概要										効率性 評価	指定管理者による経営改善の工夫・努力によりコスト削 減が可能と考えられるが、施設の維持管理面では老朽化の 進行により多額の補修経費が見込まれるため全体的には難 しい。								
事業目的	文化施設が適正に管理され、市民が不自由なく利用でき、文化芸術への志向が高まり市民生活水準の向上 が図れる。																		
事業内容	やっちくふれあいセンターの管理運営を行う事業である。R8年度からは、指定管理者である株式会社スワ ンテックが施設管理・運営を行っている。																		
開始経緯	H18年9月から地方自治法の改正に伴う管理委託制度の廃止により指定管理者制度へ移行した。 その後、指定管理者による施設の管理運営が行われているが、H9年の建設以来、約30年が経過して施設 内各箇所での老朽化による修繕・補修の必要性が増加してきている。																		
実施状況	H18年9月から指定管理者制度へ移行し管理運営を委託しているが、施設の老朽化により修繕すべき箇所が 多くなり、費用も大きくなっている。																		
成果	指定管理者の運営実績や維持管理も適正であり高い評価を得ている。自主文化事業への取り組みも好評で 利用者の増加にも繋がっている。								改革 改善案	拡充	現状維持	○	改善	効率化	廃止終了				
課題	建築後約30年が経過して施設の老朽化がすすみ、修繕を要する箇所が増えている。また、係る費用も増大 である。									建築後約30年が経過し施設の老朽化により改修の時期がきているため、必要 性・緊急性を鑑みて計画的な補修工事、修繕等を行うことにより、トラブルなく 市民への快適で有効な利用が図られる。									

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名			やっちくふれあいセンター施設管理事業		事業番号	担当課	生涯学習課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度					
					461	担当G	社会教育グループ（松山分室）					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
まちづくりﾌﾗﾝ (基本目標)			振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	管理施設数	箇所	3	3	3	3	3	3			
(個別目標)				3	文化を守り・育み・つなげるまち		主な費目	委託料					イ											
(施策)				1	文化芸術活動の推進と文化事業の充実		対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
(基本目標)			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる		事業期間		H9 年度～ 年度（ 年間）					ア	延べ利用者数	人	15,000 10,638	15,000 9,967	15,000 10,056	15,000	15,000	15,000			
(施策)			3	公共施設最適化プロジェクト									イ											
(1)総事業費の推移			単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国県支出金	千円													有効性評価	施設の適正な維持管理及び運営を行うことにより、利用者が快適に利用でき文化芸術への志向が高まり市民発表の機会を提供できる。市民の文化活動の拠点施設であり、また保健機能施設も備えており廃止・停止の方向性は考えにくい。類似施設として志布志市文化会館があるが、施設規模、周辺環境に大きな違いがあるため統廃合は難しい。 施設条例・管理規則に基づき利用料を徴収しており公平・公正である。						
			その他特定財源	千円	4,960		559		560		3,359													
			一般財源	千円	26,598		51,336		50,318		8,087													
			事業費計 (A)	千円	31,558		51,895		50,878		11,446		0											
			所要人員 (年間)	人	1,000		1,000		1,000		1,000													
			人件費概算 (B)	千円	5,600		5,600		5,600		5,601		0											
		(A) + (B)	千円	37,158		57,495		56,478		17,047		0		0										
(2)事業概要																								
事業目的	文化施設であるやっちくふれあいセンター及び周辺施設が適正に管理され、市民が不自由なく利用でき、文化芸術への志向が高まり市民生活水準の向上が図れる。																							
事業内容	やっちくふれあいセンター及び周辺施設（京の峯遺跡公園、出城公園）の維持管理等を行う事業である。 なお、やっちくふれあいセンターについては、指定管理者で対応できない部分を行う。																							
必要性	H18年9月から地方自治法の改正に伴う管理委託制度の廃止により指定管理者制度へ移行した。 その後、指定管理者による施設の管理運営が行われているが、H9年の建設以来、約30年が経過して施設内各箇所での老朽化による修繕・補修の必要性が増加してきている。 また、京の峯遺跡公園、出城公園は、直営にて環境美化作業やトイレ・遊具等の維持補修などの管理に努めている。																							
実施状況	H18年9月から指定管理者制度へ移行し管理運営を委託しているが、施設の老朽化により修繕すべき箇所が多くなり、費用も大きくなっている。 R7年度においては、ホールステージ設備ワイヤーロープ等取替修繕、消防設備修繕、浄化槽調整ポンプ及びフロートスイッチ取替修繕等を実施した。また、保健施設棟屋根防水改修工事を行った。																							
成果	R7年度は、保健施設棟屋根防水改修工事や各種設備の修繕等を実施したことにより利用者の安全で快適な施設利用が期待できる。 また、施設内ロビー奥の一角に「フリースペース」を設置し、休憩・談話・食事・学習等に利用できる空間づくりを創出した。																							
課題	建築後約30年が経過して施設の老朽化がすすみ、修繕を要する箇所が増えている。また、係る費用も増大である。																							
													拡充		現状維持	○	改善		効率化		廃止終了			
													改革改善案							建築後約30年が経過し施設の老朽化により改修の時期がきているため、必要性・緊急性を鑑みて計画的な補修工事、修繕等を行うことにより、トラブルなく市民への快適で有効な利用が図られる。 また、出城公園の吊り橋を含む遊具施設については、今後、コミュニティ協議会とも連携を図り、公園管理方針の検討を行っていく。				

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		松山地区公民館管理運営事業		事業番号	438		担当課	生涯学習課		(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度											
							担当G	社会教育グループ（松山分室）		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)											
							予算科目	会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)													
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと伝統・文化のまち				1	10	4	2		ア	条例公民館数	箇所	3 3	3 3	3 3	3 3	3 3								
(個別目標)			2	多様な志を育むまち			主な費目	旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費					イ															
(施策)			2	社会教育の充実			対象	条例公民館					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)								
													(実績)		(実績)	(実績)												
(基本目標)		総合戦略	3	結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる			事業期間	R8 年度～ R8 年度（ 1 年間）					ア	施設利用者延人数	人	8,000 5,945	8,000 6,217	8,000 7,241	8,000	8,000								
(施策)			5	こころざしアップ教育推進プロジェクト				イ																				
(1)総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価																	
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	条例公民館は、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場として活用されており、引き続き利用者が利用しやすい施設の維持管理に努める必要がある。																	
		その他特定財源	千円																									
		一般財源	千円				69																					
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	5,268	0											0									
		所要人員 (年間)	人				0.200																					
	人件費	人件費概算 (B)	千円	0	0	0	1,120	0	0	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	生涯学習講座の運営・企画等、内容を工夫しながら、参加者の増加を図っている。 また、3人の公民館主事の配置に伴う経費や施設の維持管理に係る経費であり、削減は難しい。																
	(A) + (B)	千円	0	0	0	6,388	0	0																				
(2)事業概要									達成度 評価											・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	適正な施設の維持管理を行うとともに、生涯学習講座等の充実を図りながら、利用者の利便性向上による利用者数の増加を目指す。							
事業目的	松山地域内3条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民が利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進を図る。																											
事業内容	・利用調整や施設の維持管理 ・生涯学習講座等の企画・運営 ・施設修繕、保守点検業務 等																											
開始経緯	社会教育法第21条第1項に基づき社会教育推進の中心施設として整備されており、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。																											
実施状況	松山地域内3条例公民館に公民館主事を配置し、施設の利用調整や維持管理、生涯学習講座等の企画・運営を行い、市民が利用しやすい環境を整え、生涯学習の中心施設として利用促進が図られた。																											
成果	条例公民館については、市民が利用しやすい施設として、地域住民のコミュニケーション及び生涯学習の場となっている。様々な活動に加え、高齢者学級や生涯学習講座も開設し、社会教育の推進が図られた。								改革 改善 案	拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了										
課題	各施設の設備老朽化や照明設備のLED化更新を図る必要があることから、公共施設管理計画に基づいた施設や設備の整備・更新などを年次的に進める必要がある。									利用者のニーズに合わせた利便性向上に係る取組を検討しながら、施設の適正な維持管理に努める。																		

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		有明体育施設管理事業		事業番号	担当課	生涯学習課				(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
				469	担当G	社会教育グループ（有明分室）				活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
					予算科目	会計	款	項	目	備考							
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち		1	10	6	2	有明体育施設管理費	ア	管理体育施設数	箇所	6	6	6	6
（個別目標）		2	多様な志を育むまち		主な費目	需用費・役務費・委託料・工事請負費・備品購入費				イ							
（施策）		3	スポーツ活動の推進		対象	市民				成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
（基本目標）		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる							ア	市内人口・施設利用者数	人	28,000	28,000	28,000	28,000	28,000
（施策）		3	公共施設最適化プロジェクト		事業期間	S 48 年度～ 年度（ 年 年間）				イ							
(1) 総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価						
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	市民の利用予約等を電話等で受け付けているが、今後、利用者の利便性の向上等図る上でも、市内施設のインターネット予約システム等の導入も検討の必要がある。松山・志布志3地域の体育施設に同じく施設の管理計画等の検討が急がれる。						
	財源内訳	その他特定財源	千円	1,165	1,165	1,165	770,465										
	一般財源	千円	22,161	23,258	23,258	25,021											
	事業費計 (A)	千円	23,326	24,423	24,423	795,486	0	0									
	所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025											
	人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	0	0									
(A) + (B)		千円	23,466	24,563	24,563	795,626	0	0									
(2) 事業概要																	
事業目的	市民の体力向上、健康増進、スポーツ活動の推進に寄与する。								効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	施設の管理を指定管理者に行わせているため、年間の経費削減については、管理者にお願いする形であり、施設の改修等の協議・連携は十分に果たしている。						
事業内容	有明体育施設（総合体育館、市民グラウンド、野球場、弓道場、B&G海洋プール、農村運動場）の管理運営を行う事業である。平成19年度から、指定管理者制度を導入し志布志市シルバー人材センターが施設管理を行う。施設休館日は、月曜日及び年末年始（12/29～1/3）が休館日である。B&Gプールについては、7月から8月までの2ヶ月間、供用を行う。																
開始経緯	昭和48年に市民グラウンド、昭和55年に総合体育館、弓道場、平成元年B&Gプール、市民グラウンド観覧席、野球場等整備され、その後の施設の管理を行うために事業が開始された。								達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間	令和3年度から5年間、指定管理契約を締結し、継続して施設管理を委託している。						
実施状況	平成19年度より指定管理者制度の導入により、指定管理者による管理に移行した。施設の老朽化により修繕等必要な箇所が増えてきている。																
成果	平成26年度に於いて野球場隣にピッチングブルペン完成。令和元年度に市民グラウンド庁舎側にトイレ棟新設並びに、市民グラウンド表土入替、野球・ソフトボール用備品の購入等実施。令和6年度に有明総合体育館屋根防水工事を実施。								改革 改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了		
課題	市内にある体育施設の経過年数の経過による劣化等が厳しく、総合的な計画を立て今後の在り方等検討する時期に来ている。									スポーツ予約システムの導入を図り、申請受付の簡略化を図る。							

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		公民館管理運営事業			事業番号	担当課	生涯学習課	(3)指標の推移						5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度							
								活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
											(実績)	(実績)	(実績)													
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	5	<教育・文化>心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			予算科目	社会教育グループ（有明分室）					ア	青少年館	箇所	7	7	7	7	7	7					
（個別目標）			2					多様な志を育むまち			主な費目	修繕料・役務費・委託料・工事請負費					イ									
（施策）			2									社会教育の充実				対象	有明地区7校区青少年館					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)
（基本目標）		4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる			事業期間	年度～ 年度（ 年間）								ア							有明地域人口・施設利用者数	人	6,000	6,000	6,000
（施策）		3										公共施設最適化プロジェクト														
(1)総事業費の推移		単位	5年度		6年度		7年度		8年度		9年度		10年度		(4)評価					所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円											有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	校区コミュニティ協議会の拠点施設としての役割が大きく、各校区民の憩いの場としての位置づけであり、廃止は厳しい。									
		財源内訳	その他特定財源	千円							3,435															
		財源内訳	一般財源	千円	3,383		3,523		3,482		13,805															
		事業費計（A）	千円	3,383		3,523		3,482		17,240		0		0												
		所要人員（年間）	人	0.025		0.025		0.025		0.025																
		人件費概算（B）	千円	140		140		140		140		0		0												
		（A）＋（B）	千円	3,523		3,663		3,622		17,380		0		0												
(2)事業概要																										
事業目的	有明地区7校区民の施設利用の充実と、利便性の向上に寄与する。															効率性評価	利用許可については青少年館条例に従い許可されており、必要最小限の維持管理費で運営している状況であり、施設改修等は市と公民館側で充分協議の上で必要性を加味して実施している。									
事業内容	有明地区7校区青少年館を、指定管理者（校区コミュニティ協議会）による管理を行わせることにより、地域の実情に応じた管理がなされ適正かつ円滑な管理が行える。																									
開始経緯	平成18年合併当時から指定管理者として管理を行わせており、校区コミュニティ協議会活動の拠点であり、施設の設置目的からその管理について地域の活力を積極的に活用することが望ましいため。															達成度評価	少子高齢化、自治会未加入者の増加等の問題を抱えてはいるが、地域の拠点施設としての機能は十分果たされており、令和6年から5年間の継続管理契約を継続している。									
実施状況	施設の管理、運営はもとより、施設利用の予約受付、利用状況報告を翌月10日までに提出させている。																									
成果	利用者にとって安全で快適な施設利用が図られている。															改革改善案	今後、地域コミュニティーの推進により組織見直しによる、形態の変化により管理形態の見直し、廃止等も協議が進んでいく可能性もある。									
課題	施設老朽化による修繕・改修の必要箇所が増加している。																									

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		生涯学習推進事業			事業番号	担当課	生涯学習課		(3)指標の推移			5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度												
まちづくりプラン (基本目標)		振興計画 5			＜教育・文化＞心豊かで志あふれる人づくりと 伝統・文化のまち			担当G		社会教育グループ（有明分室）		活動指標（実施状況）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)										
										440				会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)								
														1	10	5	4	生涯学習推進事業											
(個別目標)		3			文化を守り・育み・つなげるまち			予算科目		需用費・役務費・委託料		ア	管理施設数	箇所	3	3	3	3	3	3									
(施策)		2			伝統文化の保存・継承及び歴史遺産の保存・活用			主な費目				イ																	
(基本目標)		4			魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる			対象		資料館・公園の管理		ア	成果指標（成果・効果）	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)									
(施策)		3			公共施設最適化プロジェクト			事業期間		年度～ 年度（ 年間）		イ	利用者数（農業歴史資料館）	人	5,000 5,469	5,000 5,616	5,000 5,610	5,000	5,000	5,000									
												イ	利用者数（開田の里公園）	人	3,000 3,275	3,000 3,159	3,000 4,653	3,000	3,000	3,000									
(1)総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (計画・予算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価																
年間 トータル コスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	現在、来館及び電話による利用予約受付を行っているが、今後、利用者の利用促進と利便性の向上を図る意味でも、インターネット予約システム等の導入の検討が必要である。																
			その他特定財源	千円	550	550	550	550																					
			一般財源	千円	17,576	17,876	17,876	20,651																					
			事業費計（A）	千円	18,126	18,426	18,426	21,201	0	0																			
			所要人員（年間）	人	0.025	0.025	0.025	0.025																					
			人件費概算（B）	千円	140	140	140	140	0	0																			
(A) + (B)				千円	18,266	18,566	18,566	21,341	0	0	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	必要最低限の施設維持管理費、人件費等であるので削減は厳しい所であるが、開田の村管理組合側とも充分協議を行いながら施設の管理に取り組んでいる。																
(2)事業概要																													
事業目的	有明農業歴史資料館、体験館、伝習道場及び有明開田の里公園の維持、管理を適正に行う。									達成度 評価										・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	施設設置後15年以上経過しているので、施設の老朽化による修繕・改修箇所が増加傾向にある。								
事業内容	偉大な先人たちの開拓精神に立ち返り、過去から現在をみつめ、そして将来を描くことにより「青少年の体験活動の場」、「生きがいがづくりの場」、「助け合いの自立自興の場」となるよう人と人の交流の中心的施設となることを目指す。																												
開始経緯	本施設が完成してから教育委員会で管理してきたが、平成18年9月から指定管理者制度を導入し施設の管理運営業務を委託している。																												
実施状況	施設完成から15年以上が経過してきており、あらゆる箇所での修繕・改修等が出てきている。																												
成果	指定管理者である「志布志市開田の村管理組合」側と、密に協議を行いながら施設の健全な維持管理を行っている。										改革 改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化										廃止終了
課題	施設の老朽化により、修繕改修等が増加してきている。											インターネットによる予約受付システムの導入の検討。																	